

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690168095		
法人名	医療法人 養生園		
事業所名	認知症グループホーム 樹庵		
所在地	徳島県徳島市城東町2丁目7番34号		
自己評価作成日	令和1年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和元年12月11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム長が理学療法士であるため、リハビリ・自立支援に力を入れている。また事業所の行事として、秋祭りや運動会を開催し、地域の方の参加を多く得ており、交流している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、賑やかな街中に位置し、川沿いで日当たりも良く、穏やかな環境のなかにある。全職員で理念を共有し、支援に取り組んでいる。個別支援を大切に伝え、利用者の意向や思いに寄りそった支援を心がけている。毎日、多種多様な体操やレクリエーションの計画を組み、利用者一人ひとりの性格や心身状況、その時々のお気持ちを考慮しながら、楽しんで過ごすことができるように工夫している。外出支援にも積極的に取り組み、ミニ菜園造りや散歩等、日常的な外出や花見や紅葉狩り、阿波踊り、初詣等、季節に応じた特別な外出等で利用者の気分転換を図っている。毎月、全ての利用者の介護計画について協議・検討を行うなど、細やかに見直し、現状に即した介護計画を作成している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々のお状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			樹庵 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をスタッフと共に作成することにより、理念の共有を図っています。地域の方には運営推進会議にて行っている、認知症についての知識を共有することで理解を深めてもらっている。	事業所では、開所時に全職員で話しあい、作成した理念を掲げている。管理者は、カンファレンス等で理念について伝え、職員の意識づけや意見の統一を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭り、コスモス祭り、流しそうめん、運動会等のイベントに参加し、入居者様の顔を覚えてもらい地域との交流を深めています。	法人内の行事や事業所独自の行事の際に、地域住民の参加を得て、地域との関係性を深めている。また、ボランティアの来訪を受け入れたり、同一法人の運営する託児所と交流したりして、楽しい時間を共有することができるよう交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて参加者への対応方法や実例を挙げてレクチャーしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者様にデイサービス職員がいますので、教えて頂いた、外出先を参考に先を決めています。	年6回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター、協力医療機関看護師等の出席を得ている。会議では、事業所の報告や勉強会を行い、出席者から意見を得ている。出された意見は検討し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に取り組みの紹介をおこなっています。	職員は、利用実績報告の提出や介護認定の更新時に、市の担当窓口を訪問し、担当者に事業所の暮らしぶりについて伝えている。わからないことがあれば、電話でも相談している。地域包括支援センターとも困難事例の相談などを通じて、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口にオートロックの扉がある。身体拘束については身体拘束予防対策委員会でも周知しています。	事業所では、身体拘束予防対策委員会や勉強会の際に、全職員に身体拘束にあたる行為や弊害について周知するよう努めている。利用者の安全に配慮して、玄関には電子錠がかかっているが、利用者一人ひとりの外出したい雰囲気や気持ちにあわせて、一緒に外に出るなどの対応を行っている。	引き続き、委員会や勉強会の際に、利用者の自由な暮らしについて話しあうことが望まれる。玄関の施錠を含め、利用者が抑圧感を感じることなく、安全に暮らすことができるような工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の倫理と虐待についての勉強会を実施しています。疑われる事例がもしあれば、ホーム長と該当職員が面談する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			樹庵 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近成年後見制度を利用される方やこれから利用しようか考えている方が増えています。これらの事にも対応、支援できるようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所に1部、利用者家族に契約書、重要事項説明書を渡している。また、ホーム内に掲示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を設置している。運営推進会議で話題に上がった外出先に向かう。	職員は、利用者と日ごろからコミュニケーションを図ることで、意見や要望をくみ取ることができるように努めている。家族の来訪時には、意見を聞き出すことができるように積極的に話しかけている。出された意見は検討し、迅速に対応できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを毎月実施。また、年に2回の個別面談を実施し意見を反映させている。	管理者は、職員との日ごろのコミュニケーションのなかで意見や提案をきくようにしている。カンファレンスや年2回の個人面談などにより、個別に意向を確認している。出された意見等をもとに検討し、勤務態勢などの運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時に自己評価を行ってもらい、出来不出来を自身で見直してもらっている。過信しているところは指摘、指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接病院にて講習、勉強会、交流の機会が多々あり研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接事業所への研修やイベントを共同で行うことで交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			樹庵 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談、担当者会議を行い、入居者、家族の要望を確認し良好な関係を探れるように図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談、担当者会議を行い、入居者、家族の要望を確認し良好な関係を探れるように図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人個人で出来ない事をADL別に評価し、個別トレーニングで改善を図れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から教えてもらったり、教えたりの関係性をつくるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会の機会を作り、預けっぱなしにならないように助けて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の来訪は歓迎しています。また、家族との外出や外泊もできるよう支援しています。	事業所では、利用者の友人や知人の来訪時に、ゆったり過ごすことのできる場所を提供したり、雰囲気づくりに配慮したりしている。知人からの手紙の代読なども行っている。また、家族の協力を得て、馴染みの美容院や自宅近隣のドライブを支援するなど、家族と協力しながら、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	折り紙や、色塗り等のレクや家事が好きな方等、リビングの席を隣にするように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			樹庵 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後いつでも相談、支援に応じる事をお話させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や意向をケアプラン毎に確認し把握に努めています。	職員は、利用者の日ごろの暮らしぶりや会話等から思いや意向の把握に努めている。気付いたことを、毎月のカンファレンスで話しあっている。職員は、利用者や家族の気持ちや視点にたつて、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの情報提供や家族様からの情報などを職員間で共有し、個別ケアができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの経過記録を日々記入し共有しています。入居者様のできる事を大切にしながら支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の性格的な特徴の把握に努め、対応を個々で検討している。	事業所では、利用者や家族、関係者からの意見を反映した介護計画を作成している。毎月のカンファレンスで、全ての利用者の心身状況について、チェック評価と文章評価でモニタリングを行い、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録として行ったことを記載している。また、その反応や顔色の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理学療法士を配属し、既存のレクのみならず、体操やリハビリに力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			樹庵 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的サービスのみならず、阿波踊り会館やビックひな祭りなどの地域のイベントに参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれの主治医がおり、定期的な受診支援をしております。また他の科に受診依頼がある場合に家族様に連絡、相談しながら、速やかに受診できるよう連携を図っております。	事業所では、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。緊急時以外は、家族の協力を得て、通院介助を行っている。受診の際には、“受診チェックリスト”を作成し、家族や医師と情報共有の漏れがないよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接医療機関から看護師にきてもらっている。月に1回カンファレンスを看護師と開催し、問題の把握や改善に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	カンファレンスや直接MSWやPSWと関わり早期退院や安心して暮らす支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として医療支援は訪問看護師にお願いしている。対応可能な医療支援について家族に説明を行い支援している。	入居時の段階で、看取りの指針を用いて、重度化や終末期における事業所の対応について、利用者や家族に説明し、同意を得ている。また、心身状況の変化に応じて、そのつど方針を再確認し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作製し、それに準じて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	協力医療機関と連携し対応している。年2回の防災訓練を行っている。	年2回、火災や地震、津波を想定した避難訓練を行っている。うち1回は、同一法人の運営する併設の医療機関と連携し、消防署の協力を得て、行っている。併設施設とも連携し、備蓄品を整備しているが、地域との協力関係を築くまでには至っていない。	今後は、地域に向けて働きかけ、避難訓練に地域住民の参加を得るなどの取り組みに期待したい。夜間帯における職員のみでの避難誘導の限界をふまえ、地域との協力関係の構築に取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			樹庵 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスや勉強会等で入居者様に対する言葉掛けや対応について話し合いを行い見直しを行っています。また職員間でも意識し注意しあえるように努めています。	職員は、利用者との関係が馴れ合いになりすぎないように注意している。また、利用者が自己決定しやすいような言葉かけや、やさしさが伝わるような口調等に努め、誇りやプライバシーを損ねない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、外出先やレクの希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のタイミングは本人の希望に添えていないこともあるが、緊急時に備える必要性等説明し納得して生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に理容師を呼び、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っている。食器拭きや机拭き、下膳は入居者様に手伝ってもらっている。	食事は、併設の病院で作られたものを、事業所で食べやすい形状にし、提供している。誕生日には、利用者の好きなものを提供している。リクエストに応じておやつづくりをしたり、回転寿司などの外食に出かけたりして、食事が楽しいものとなるよう工夫している。下膳や台拭きなどの片付けは、利用者職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の計算を行っている。不足している水分やカロリーは捕食で補っている。カンファレンスにて看護師に指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な方に関しては、職員と一緒にケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			樹庵 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをしないようにしている。失敗がある方に関しては定期的にトイレ誘導を行い、自信の回復に努めている。	管理者と職員は、“オムツは使用しない”という方針を共有して対応している。立位が不安定な利用者も、トイレで排泄できるよう、職員2人で支援している。夜間もトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態確認を行い、下剤の調整を行っている。便秘がちな方には水分や便秘の体操を行い解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴タイミングを確認し、できるだけ以降に添えるようにしている。夜間の入浴希望には添えていない。	事業所では、利用者の体調や希望にあわせて、週3回は入浴できるよう支援している。入浴は、利用者の希望に応じて、できるだけ同性が支援している。入浴を拒む利用者には、声かけやタイミングを工夫して、無理強いすることなく入浴することができるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にテレビをみる方もいるので、できる限り音量の調整や聴力を把握し居室を選定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変化があった場合は日誌に記載し全員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や職歴、得意分野に合わせたレクを提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方は安全な範囲で職員が同行し散歩やゴミ出しと一緒に出掛けています。地域との連携はできていない。	事業所では、気候の良い日に近くの川沿いや運動場に散歩に出かけている。庭の草取りや花の水やり、ミニ菜園作りなど、日常的に外に出て気分転換を図ることができるよう工夫している。また、季節に応じてお花見や紅葉狩り、阿波踊り、初詣等に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			樹庵 2F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週とくしまで好きなおやつを買って頂いている。お金の所持はしてもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は自由に書いてもらっている。電話は携帯電話の持ち込み自由。また、電話は希望時にしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に入居者のみならず、ご家族様も安心して頂ける空間づくりを支援しています。	共用空間は、天井が高く、広々としている。手芸品や花を飾り付け、明るい雰囲気がある。テーブルや椅子等の配置も考慮し、気の合う利用者同士で話をしたり、一人ひとりが寛いだりできるように工夫している。日常にお参りに行きたい利用者のために、職員が手づくりの鳥居を飾りつけるなど、一人ひとりが居心地よく暮らすことができるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームがあり、居室の他にリビングやサンルームがあり、他者が干渉しすぎないような居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅の環境を再現できるように、自身のマグカップやタンス、写真を持ち込んでもらい、安心して過ごせるように支援しています。	居室には、利用者の馴染みの家具を持ち込んでもらっている。家族の写真や手芸品を飾ったり、マットや座布団を設置したりして、思い思いに過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人の好きな目印を置く事で部屋間違いを防いでいます。トイレの間違いいには活字や写真でトイレの目印がわかるように支援しています。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹庵 1F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングにケア理念を掲示し職員が意識し理念に沿ったケアができるよう心掛けています。また法人理念は名札の裏に記載されておりいつでも確認でき実践できるよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達が参加できる法人主催のお祭りに参加し交流を図ったり、事業所では慰問に来ていただき社会と繋がりが少しでも保てるよう心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩したり、車で外出する事によって人と関わりを持ち、交流する事によって認知症の事を少しでも理解していただけるよう外出の機会を保つようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内でのイベント時の写真をプリントしそれらの事を報告しながら、参加者様の意見、提案を聞き今後の参考にしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際には担当者様と意見交換をしたり関係書類の提出等で関係構築に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で拘束廃止に関する勉強会を開き、職員全員が周知できるよう努めています。ただ事業所には玄関施錠があり、施錠について職員間で話し合いしながら入居者様の負担にならないケアを目指しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を開いたり、毎月行うカンファレンスの時間をうい虐待の疑いが無いか話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹庵 1F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	最近成年後見制度を利用される方やこれから利用しようか考えている方が増えています。これらの事にも対応、支援できるようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の内容と一緒に確認しながら疑問等に答え丁寧な対応を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時や運営推進会議時に日常生活上の出来事を伝え、要望等あれば直ぐに反映できるよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス会議内で意見や情報を共有し、サービスが向上できるよう取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の個性を理解し強みを発揮できるように職場環境を整えるよう努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年二回の面談や日頃の仕事内容を確認しながら力量を把握し、内外の研修でスキルアップできるよう促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部からの実習生の受け入れや、隣接施設との勉強会等交流する事により意見交換できサービスの質の向上ができるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹庵 1F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談の機会を作り、本人様、家族様からヒアリングをし、できるだけスムーズに入居できるよう努力しています。入居後も安心して生活できるよう環境、関係作りにも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも不安要素があれば話あい、信頼関係が構築できるよう入居前から取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には見学に来ていただき、入居希望の経緯、現在の生活状況等をお聞きし対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の強みを把握し発揮できるような環境を整え、職員と共に向上していき職員は常に感謝の気持ちを伝える事を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様それぞれの関係性を理解しながらそれぞれに見合った関係性を保ち職員と共に本人様を支えていく関係作りができるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方の来訪は歓迎しています。また、家族との外出や外泊もできるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握しながら席順を考えたり、職員が間に入り関係性を良好に保てるよう努力しています。またレクリエーションを通じて、関わり合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹庵 1F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後いつでも相談、支援に応じる事をお話させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が入居者様一人ひとりの希望、意向に関心を持ちながらサービスを行っています。また意思決定できるよう否定はしないようにしています。意思決定困難な方はその方の表情や様子を伺いながら把握するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの情報提供や家族様からの情報などを職員間で共有し、個別ケアができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの経過記録を日々記入し共有しています。入居者様のできる事を大切にしながら支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日行うサービスをサービス実施計画書にまとめ、月末にはサービスが適していたのか話あっています。また家族様や他職者から意見を伺いそれらを元に介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録、サービス実施計画書を記入している。しかし職員個々に記載の仕方のバラつきがあり、十分とは言えない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様から要望、意見等伺い支援ができるよう努力しています。また職員全員がカンファレンス時だけでなく日頃情報を交換しながら新しいアイデアがあれば次のサービスに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹庵 1F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は不十分です。年に数回慰問ボランティアをお願いし交流をしているが、その他はこれから取り組みできるような努めます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれの主治医がおり、定期的な受診支援をしております。また他の科に受診依頼がある場合に家族様に連絡、相談しながら、速やかに受診できるよう連携を図っております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が来られ、入居者様の体調管理をしていただいています。その際医療連携記録を利用し職員全員で共有しています。また不安要素があれば必要に応じ相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族様や入院先の医療機関と情報交換を行い、本人様の安定を考慮しながら退院後も安心して暮らせるよう支援しています。また主治医には情報提供を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設医療機関の主治医や家族様と密に情報を共有しながら、入居者様の変化等報告しています。職員間でも変化を見落とさないよう様子観察し連携を図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、併設の医療機関と連絡がとれるよう整備しています。また職員は定期的に行う応急処置の研修に参加できるよう計画しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、非常時に備えてマニュアルを作成しています。法人内の併設医療機関の避難訓練にも参加し消火器の扱い方等を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹庵 1F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスや勉強会等で入居者様に対する言葉掛けや対応について話し合いを行い見直しを行っています。また職員間でも意識し注意しあえるように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるような声かけを心掛けています。表情や仕草を観察しながら支持ではなく、会話の中で促しができるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はありますが、一人ひとりの自己決定を大切にしながら尊重できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際には本人様に着替えを選んでいただいたり、美容師に定期的に訪問していただき本人様に髪型をどうしたいか一緒に考えながらカットしていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て配給されています。ただ弁当箱で配給されている物を器に入れ替え目で楽しめるよう努めています。事業所内でおやつレクを定期的に開催し入居者様と一緒に作る楽しみを感じて頂けるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を記録して注意を払っています。一人ひとりの好みを把握しながら、水分提供しています。また栄養状態が悪い方には主治医と相談し栄養補助飲料を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科の訪問診療を実施していただき、その情報を元に一人ひとりの口腔状態の把握をし毎食後歯磨きの声掛け見守りを行っています。ブラッシング介助や義歯の着脱にも気を付けて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹庵 1F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員がトイレでの排泄を行っています。必要に応じ、様子観察しながら声掛けや誘導するよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	投薬で調整が必要な入居者様は主治医と相談しながら対応しています。また体操や散歩を取り入れ身体を動かす事によって排便がスムーズに行えるよう努力しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めています。一人ひとり意向を伺い臨機応変に対応できるよう努めています。また一人ひとりの能力に応じ、職員がどこまで介入するか職員間で周知しながら対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮しながらレクリエーションやお茶の時間、体操の時間等参加していただき、自室でできるだけこもらないように心掛けています。そして夜間は安眠していただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確認できる一人ひとりのカルテに薬情を綴っています。また処方内容が変更の際には医療連携ファイルに記載し申し送りでも伝え周知できるよう努めています。また配薬の際には誤薬がないよう職員間と本人様との間で名前の記載を確認しあっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族様から趣味や入居前の仕事内容等情報をいただき、庭で土いじりや室内では将棋、クロスワード等個々で興味がある活動を行っていただいています。また週に1度とくしまるを活用し個々の好みの沿ったおやつや必要品を選んでもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には体調を考慮しながら散歩に出かけ前の川で魚を見たり眉山を眺めています。また併設の施設からマイクロバスを借り、植物園、阿波踊り会館や神社等に行き四季を感じていただけるよう支援しています。残念ながら地域住民の協力を得るには至っていません。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹庵 1F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自事業所では本人様のお金の所持は行っていません。一人ひとり預り金を家族様合意のもと事業所で管理し月単位で報告書をまとめて家族様にお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様や家族様から希望があれば電話を取り次ぎ、子機を使用し自室でお話していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはレクリエーションで作った壁画を飾り季節を感じられるよう努めています。室温はそこで過ごされている入居者様の意見を聞いたり、温度計で確認しながら調節するよう心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用し、リビングの端に設置し座れるようにしたり、サンルームにもソファを設置しており、どなたでも使用できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、タンス、机、椅子が設置されており、布団もリースでと決まっております。ただ使い慣れたクッションやテレビ等を持ち込まれ居心地良く生活できるよう支援しています。設置場所を相談しながら導線の確保ができるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの能力を職員で把握しながら対応しています。危険がないよう見守り、必要な介助をしながら環境整備を心掛けています。		